

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度 第1回郷育推進会議
開催日時		令和8年5月26日（火） 18：30～20：00
開催場所		福津市役所別館1階 大ホール
委員名		(1) 出席委員 木本会長、山口副会長、伊藤委員、宇都宮委員、 大森委員、國廣委員、立山委員、道園委員、中島委員、 柳田委員
所管課職員職氏名		教 育 長 薄 俊哉 教 育 部 長 宮原 栄介 郷 育 推 進 課 長 芹野 文彦 郷 育 推 進 課 郷 育 係 長 宇藤 雄矢 郷 育 推 進 課 郷 育 係 山西 菜穂子
会 議	議 題 (内 容)	1. 議題 (1) 令和7年度 郷育推進課事業報告 (2) 令和8年度 郷育推進課事業計画説明 (3) 市中央公民館の利活用に関するアンケート (4) 令和8年度の郷育推進会議計画について
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	1人
	資料の名称	・ 令和7年度郷育推進課事業報告 ・ 令和8年度郷育推進課事業計画説明 ・ 福津市中央公民館の利活用に関するアンケート ・ 福津市郷育推進会議R9に向けてのロードマップ
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録 記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会のことば

2. 委嘱状交付

3. 教育長あいさつ

4. 協議事項

（1）令和7年度 郷育推進課事業報告

●事務局より、資料を基に説明

●委員

「補助金」とあるが、社会教育団体等への補助金総額はいくらか。

●事務局

合計で1,500万円程度となっている。

●会長

アンビシャス広場指導者等研修会の、ミニ運動会とはどのような内容か。

●委員

各アンビシャス広場から10名ほどが一堂に会し、風船を使ったゲームなど、室内で安全に楽しめる内容を実施した。参加者同士がお互いを知り合う良い機会となった。

●会長

昔は各地から参加してリレーや玉入れ、綱引き等を行う町民運動会があり、地域のつながりを感じることができた。

ミニ運動会にはどれくらいの人数が参加がしたのか。

●委員

100名程度。

●事務局

現在はアンビシャスに行っている方のみが参加した。

●会長

地域づくりにおいて、横のつながりを作る取り組みは重要。昔の町民運動会のように、郷づくり協議会や地域、子ども会との連携も期待したい。

（2）令和8年度 郷育推進課事業計画説明

●事務局より、資料を基に説明

●会長

部活動の地域移行（地域展開）とはどういった内容か。

●事務局

令和6年度から事務局を立ち上げ、令和7年度から部活動地域展開が段階的に始めている。

今の部活動を徐々に地域認定クラブへ移行している。令和10年度の完全移行に向け、現在は休日の部活動を徐々に地域クラブとして活動するよう動いている。

学校の先生が部活動の指導をしていたが、今後は部活動の指導者として謝金を支払う。

●会長

今回実施するアンケートの結果により、中央公民館を部活動の地域展開に活用するかもしれない。文化系の部活動に公民館等を地域資源として活用していく事等視野に入れて、部活動地域移行の仕組みを本会議の委員として正しく理解していく必要がある。

●委員

部活動の地域移行の財源は国の補助金か。また、「地域実証」というのは補助金の名称か。

●事務局

国の補助金の事業。「地域実証」という事業名称は補助金名をそのまま引き継いでいる。

●委員

現在国は「地域移行」から「地域展開」と名称を変えているので、こちらでも変更した方が良いのではないか。

●事務局

呼び方を変更する。

●会員

文化協会の発表会について説明してほしい。

●委員

福岡県内10市町が持ち回りで行う芸能発表会で、今年は福津市が12年ぶりに担当。本来は2年前が当番だったが、カメリアホールの改修があり、今年になった。11月29日カメリアホールにて、各市町の芸能を披露。30演目超の予定で、山笠をオープニングに構成中。フィナーレは福津市のイメージソングの大合唱を予定。合併15周年に作られたミサンガの「You're My Home」。発表会の詳細は後日お伝えする。

(3) 市中央公民館の利活用に関するアンケート

●事務局

アンケートの目的は、中央公民館の利活用促進に向け、市民の意向を把握するもの。特に中学生・高校生の視点を積極的に取り入れることで、若年層が集まる公民館づくりを目指す。

実施方法について。中学生に対しては、今年度から学校教育課で導入された新しい学校連絡アプリ「すぐーる」を活用し、事務局から直接保護者へアンケートの周知を行う。中学生には学校に依頼し、夏休みの前にタブレット端末を活用して一斉に回答を促す方向で調整。

高校生へは公式ラインや二次元コードを掲載したチラシで周知する。6月前半から周知開始、6月末に発行される7月の広報誌に、アンケートについての記事を掲載する予定。

回答期限についてはこの会議でご意見をいただきたい。

●会長

「すぐーる」はどういったものか。

●事務局

従来のスクールメールは学校から配信されていたため、市からのお知らせを学校に依頼して配信作業を行ってもらう必要があった。「すぐーる」は事務局（教育委員会）から直接配信ができる。また、特定の学年や保護者、コミュニティ・スクール、学校運営協議会等、設定しているカテゴリー、グループ（「すぐーる」ではチャンネルと呼ばれている）ごとに個別に配信が可能。

●会長

いつから「すぐーる」を使用しているか。誰でも登録をして情報を取得できるのか。

●事務局

今年度から運用している。対象者に二次元コード、番号を渡して登録をしてもらっている。そのため二次元コードがなければ登録できない。アプリであるためスマホを使用しての利用となる。

●会長

「すぐーる」等新しい取り組みについて、本会議の委員も理解しておく必要がある。アンケートの回答、回収期限はいつに設定するか。

●事務局

集計の関係と、生涯学習推進計画と関係してくる部分があるので、回答期限はあまり長すぎない方が良く考えている。

●会長

別紙3のロードマップを見ると、6月に諮問を受けて、7月にアンケートの結果を反映、9月に答申となっている。

●事務局

事務局としては夏休み期間中の7月8月にアンケートを実施し、9月の会議の答申書作成の際に資料として結果を反映したい。

●会長

7月の終わりが良いのではないかな。事務局で集計等事務作業にかかる時間はどれくらいかな。

●事務局

作業時間は多くはかからない。

●委員

タブレットは夏休みに自宅に持ち帰るのか。

●委員

持ち帰ることができる。

●委員

タブレットを使用してアンケートに回答する所要時間はどれくらいかかるのか。

●事務局

所要時間は5分程度。

●委員

5分程度であれば、タブレットに表示されるアンケートの回答を夏休みに持ち帰って行うのではなく、朝の学活等を利用して学校で一斉に実施もらえるよう依頼してはどうか。欠席者以外は回答ができる。宿題として持ち帰ると忘れてしまい、回答率が下がる可能性が高い。

●会長

アンケートの内容は中学生、先生にも関係してくるので、先生方に声掛けを依頼してはどうか。時期は7月31日という方向性でいかがかな。

(同意)

●委員

市内在住の高校生へは学校を通しての周知が難しいのではないかな。

●会長

市内の2つの高校には直接依頼するなど、アナログ、デジタルの両方から周知に努めてほしい。

●委員

高校生向けアンケートの問1に高校の学年を選択するようになっているが、高専等に通っている学生で4、5年生はどう回答すればよいか。

●委員

通信制高校に学生も4年生がいるがどうするか。

●委員

「その他」を追加すればよいのではないかな。

●事務局

問1の選択肢に「□その他」を追加する。

●会長

中央公民館は、昔は多くの人が利用する場所だった。その中央公民館を学校教育にも役立つような場所にするために、このアンケートを作成し活用したいと考えている。

今回「生涯学習推進計画」を作成するにあたり、公民館の利活用も関係してくる。また、現在の計画を策定した時から、教育環境は大きく変わっている。同時進行で社会教育と学校教育を現状に即した形で策定する必要がある。

(4)令和8年度の郷育推進会議計画について

●事務局

6月に諮問の予定。アンケートの期限が確定したので、今後の計画を後日改めて示す。10月末を目途に答申をいただき、最終的には令和9年4月頃から時期計画期間となる。教育懇話会と歩調を合わせ、連携させたい。

●委員

歩調、時期があっているとやりやすい。

●会長

教育懇話会、郷育推進会議の内容がお互いに反映されることが大切。協力し合えるポイントが見えるとわかりやすい。

公民館や図書館という場所は活用の幅が広いので、生涯学習推進計画にうたえればよいと思う。

●委員

中学生からの回答に、どんな内容が出てくるかわくわくしている。高校生からもどんな意見が出るか楽しみ。

●委員

自分が学生なら答えたいような内容のアンケートだと感じた。

●委員

アンケートの問いに対する選択肢を見ていると、宗像ユリックスが良い例として頭に浮かんでくる。交通のアクセスが悪くても利用者が非常に多い。プラネタリウムもあり、行きたい場所のモデルケースだと思う。近くに良いモデルがあるので、福津市中央公民館と比べてどこが違うのかと考えた。

●会長

委員さんが言われるように、目指せユリックスのような気持ちで取り組みたい。

●委員

アンケートの結果により、中央公民館がどのように変わるのかが楽しみ。

●委員

中高生が文化的なことにどれほど興味があるのか、結果が楽しみ。

中学生と大学生は交流の機会があるが、高校生とはなかなかないので、交流の場ができるの良い。公民館は文化系の部活動での活用もできるのではないかな。

●委員

見学に行った際に、中央公民館の茶室があまり利用されていないのがもったいないと思ったので、活用してほしい。

●委員

自身の子どもが中高生なので、アンケートにどのように答えるか楽しみ。

●委員

生涯学習推進計画の策定時と現在で大きく変わっているのが情報関係について。生成 AI 等の技術が普及しているので、計画に「情報とのつながり」を盛り込む必要があるが、情報化社会＝すべてデジタル化ではない。デジタルは手段として捉えるべき。

リアルに接して「肌で感じる感覚」や「場の空気感」といった人間のリアルな五感・直感は AI では代替できない。これまでの自然・人と触れ合う事業の「価値」を再評価し、数値的な実績だけでなく「その活動がどのような価値をもたらすか」という成果目標を意識する必要がある。

次回の諮問を受けて答申に向かう際には、各委員の立場から、この「活動の価値」についてしっかり意見を持ち寄って協議していきたい。

5. その他

次回開催日について

第2回 令和8年6月22日（月）18時30分～開催予定。

第3回 令和8年7月22日（水）18時30分～開催予定。